

戦略1 雇用の創出と確保

1 現状・課題

雇用の場の確保に向けては、新規誘致案件はなかったものの、誘致企業の第2期投資計画の進捗や市内既存企業の事業拡張に伴う増設により、新規雇用者数の確保につながってきた。また、地元採用の状況を見ると、サービス業を中心に、卸・小売業、製造業において5割から6割程度となっている。一方で、最近の有効求人倍率は1.40倍から1.50倍で推移しており、人手不足への対応が課題である。人口減での求職者数の減少という状況の中で、1件でも多くの確実な就職へのマッチングを行なっていく必要がある。

2 取り組みの方向性・方針

有効求人倍率は、高水準で推移することが予想されることから、ハローワーク倉吉との連携をはかりながら、就業情報の提供を行なうなど人材確保に向けた取り組みを行なう。また、人材育成の観点から、就業に必要な能力開発を促進する。人手不足は深刻な課題ではあるが、引き続き、雇用創出に向け、市内既存企業等の事業拡張に伴う雇用増を促進する。

3 施策の取組方針

（1）企業立地（起業）の促進

雇用創出に向けては、誘致企業の人材確保の動きや市内既存企業の規模拡大から雇用増につながってきた。人口減による求職者数の減少など、人手不足は深刻な課題ではあるが、雇用創出に向け、今後も企業訪問等により企業動向を把握しながら、事業拡張に伴う増設の動き等に対応し新規雇用増を促進する。

（2）就業情報の提供

有効求人倍率を職業別に見ると、サービスの職業や専門的技術的職業で2.00倍を超え、生産工程の職業においても1.00倍で推移している。また、正社員有効求人倍率も1.00倍に達しており、求職者数から見て、人材を確保しにくい状況にはあるが、引き続き、ハローワーク倉吉との連携をはかるとともに、市において開設している「無料職業紹介所」での就職情報の提供を推進し、確実な求人求職のマッチングを推進する。

（3）人材育成の推進

人材育成については、全体的に能力開発に関する講座等の参加者数は増加傾向にある。中でも、鳥取県立産業人材育成センター（倉吉校）での資格取得にメニューが増えたことと休日利用により受講しやすくなったことから参加者は増加してきた。引き続き、開催が予定される講座等の情報を提供していく。

（4）環境・エネルギー等新産業の育成

自然エネルギーの導入展開については、太陽光発電を中心に、市内の約6事業所で取り組まれている。電力固定価格買取制度の見直し等もあり、今後の事業化に向けた取り組みは難しい状況にある。太陽光発電のほかに、木質バイオマスエネルギーの事業化に向けて「倉吉市木質バイオマス等再生エネルギー活用検討協議会」において協議しているところであり、引き続き、研究協議を進めていく。

4 戦略会議での意見等

倉吉市地域産業振興ビジョン
平成30年度 戦略・施策の取組方針（案）

戦略2 農商工連携による6次産業化の推進

1 現状・課題

6次産業化の推進については、地元の農産物を活用した商品開発や異業種連携による商品開発の動きがあるものの、販路の確立等に至っておらず、次の展開につながっていない。J A 鳥取中央をはじめ、6次産業化の取り組みをそている団体があるにもかかわらず、次の展開につながらないことについては、取り組みの考え方、商品の質や量などの内容把握及び販売につなげる動きが弱かったことにある。地元の特産品等を使った商品開発ならびに販路の開拓に向けた団体等の動きを促進（活発化）する必要がある。

2 取り組みの方向性・方針

出荷規格外品（Bランク商品）を活用し、製造・販売する団体等への働きかけとともに、開発された商品の認知率の向上に取り組む。また、その過程において、農産物加工技術を持ち、加工品の製造に意欲のあるJ A 鳥取中央との連携をはかっていく。さらに、商品開発・販路開拓については、「とっとり中部発信プロジェクト（商工会議所と商工会連合会との共同事業）」の取り組みを中心に行なう。合わせて、商品開発から販路開拓までの各段階における相談体制を確立する。

3 施策の取組方針

（1）地域ブランド商品の開発推進

地域特産品等を使った独自商品開発の動きが弱いことから、出荷規格外品（Bランク商品）を有効活用しようとする団体等の動きを促進する。中でも、トマトケチャップ製造など、すでに取り組んでいるJ A 鳥取中央と連携し、商品開発と団体等の育成を推進する。また、並行してその他6次産業化の可能性のある素材を調査する。

（2）マーケティング強化と販路拡大の推進

倉吉商工会議所と中部産業支援センター（商工会連合会）が中心となり、「とっとり中部発信プロジェクト」による販路開拓を進めており、この中で市内事業所12社26品目を取り上げている。引き続き、販路開拓のルートが確保できるよう支援していく。また、市内所業者の商談会への積極的な参加を促進する。

4 戦略会議での意見等

倉吉市地域産業振興ビジョン
平成30年度 戦略・施策の取組方針（案）

戦略3 にぎわい創出と観光業の振興

1 現状・課題

鳥取県中部地震の影響により一時減った観光客数は、マイルス協会による観光商品開発数の増などの要因により戻りつつある。また、乗用車を利用した旅行者への対応も観光駐車場の確保により可能となった。今後、より一層の観光客増をめざすため、観光情報発信、さらなる観光商品等の開発、受入環境の整備をする必要がある。

本市の小売吸引力は、引き続き、県内でも高い水準であり、市内の年間商品販売額も増加（向上傾向）している。また、銀座商店街（振興組合）の活動も活発化している。引き続き、新規事業の立ち上げ支援や空き店舗の有効活用を進めていく必要がある。

2 取り組みの方向性・方針

「レトロ&クールツーリズム」や、開催イベントの情報を発信し、白壁土蔵群を倉吉観光の中核に据えた観光ガイドの養成・平準化や観光利便性の向上など受入環境の整備に取り組み、既存観光資源の新たな活用、新たな観光資源の掘り起しによる観光メニューの充実により、観光の目的地となる観光地を目指す。

商店街等のにぎわいづくりは、引き続き銀座商店街の活動を支援していく。新規開業、経営安定のための相談窓口の充実強化を図っていく。

3 施策の取組方針

（1）商店街等のにぎわいづくり

銀座商店街でのイベント（4回）には多くの市民が参加し、店舗の周知とともににぎわいがつながりつつある。また、銀座商店街振興組合員は34（H28.4）から57（H29.11）に増え、組織の強化につながっていることから、引き続き、銀座商店街の活動を支援する。空き店舗については調査を継続し、市ホームページにより情報提供を行ない、マッチングをおこなっていく。

（2）新規開業など事業者への支援の充実

新規事業の立ち上げ支援として、よろず支援拠点と連携した経営相談窓口の活用を重点的に推進する。相談対応としては、新規開業支援だけでなく、商品開発や販路開拓への支援も行なう。さらに、相談体制の充実に向けては、「とっとり企業支援ネットワーク」との連携強化をはかり、ネットワーク体制での支援つなげる。

（3）観光戦略に基づく観光情報の発信

倉野川市との姉妹都市提携等の話題を発信し、県内外の若い世代層を中心に倉吉を知ってもらうことができた。また、ひなビタ♪イベントに関する特設サイトへのアクセス数は約10万件であった。ひなビタ♪と連携したイベントを年4回開催し、延べ人数で合計1万人以上のファンが来訪し、継続的に訪問するファンも増えている。イベント後の継続的な訪問客の増が課題である。ひなビタと新たなフィギュアミュージアムを連携させた「レトロ&クールツーリズム」、大山開山1300年祭（関金温泉開湯1300年事業との連携）、山陰ディスティネーションキャンペーン、スポーツコンベンション誘致（クライミングアジア大会）などを活用し、観光の目的地、観光客から選ばれる観光地に向けた取り組みとして、多くの観光客に訪れてもらう動機付けの動きを展開する。また、国外集客については、山陰インバウンド機構及び鳥取中部観光推進機構と連携し、アジア圏を中心に誘客・発信を図っていく。

（4）観光資源の活用と整備

来訪者の内、白壁土蔵群に約半数（54%）しか来訪していない現状から、「来訪価値の向上」の取り組みとして、提供価値の向上により「倉吉に来る目的」を高める動きを展開する。具体的には、既存観光資源の新たな活用、新たな観光資源の掘り起しによる観光メニューの充実、フィギュアミュージアム等との連携による魅力向上により、目的地となる観光地を目指す。

（5）受け入れ環境の整備

H28年度は、地震後の案内所の一時閉鎖等の影響もありガイド利用者数、案内所への来訪者数は減少した。一方、観光案内所を訪れる外国人の数は前年比の約2倍となっている。

観光マイルス協会の事務所を白壁土蔵観光案内所に移転し「白壁土蔵群」を倉吉観光の中核に据える動き、6つの観光ゾーンの設定、周遊観光モデルコースの設定、標識・サインなどの環境整備、市民との協働による景観向上などに取り組み、内外の利便性と受入環境の向上に繋がる取り組みを展開し、2時間以下と短い白壁土蔵群の滞在時間の延伸に結びつける。

4 戦略会議での意見等